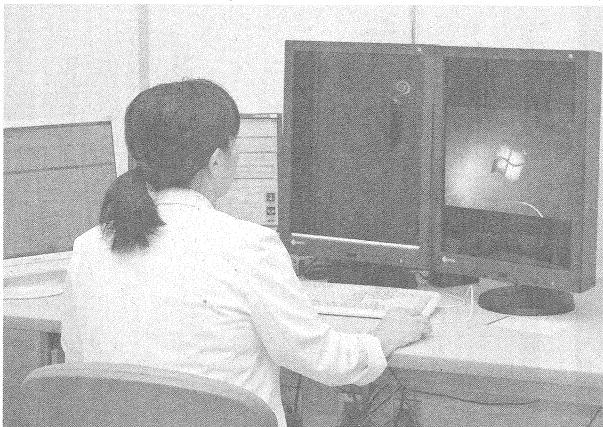


放射線科に在宅勤務制度



テレワークによる在宅勤務を導入した兵庫医科大。放射線科の画像診断を自宅でも行なうことができる

ICT活用 兵庫医大が導入

兵庫医科大学（西宮市武庫川町）は、放射線科医師を対象に、ICT（情報通信技術）を活用したテレワークと呼ばれる在宅勤務制度を導入した。仕事と生活のバランスを図るのが狙いで、総務省によると、テレワークは企業の16%（2015年末現在）が取り入れているという。

仕事と生活 調和を

同大は、兵庫医科大病院（41診療科、963床）を運営する学校法人。2014年に性別にかかわりなく個性と能力を發揮できる男女共同参画を推進することを宣言。行動計画の基本方針の一つに「仕事と生活の

バランスを図ること」を掲げた。

放射線科の医師は、磁気共振画像装置（MRI）やコンピューター断層撮影装置（CT）で撮った患者の画像を見て、病巣や病気の進行具合を診断する。パソコンとモニター画面があれば自宅でも診断可能であることから、17年に現場責任者から在宅勤務制度

PCとモニターで画像診断

の導入を望む要望書が提出されていた。

4月導入のテレワークの対象者は放射線科の教員や病院助手で、専門医の資格を持ち、満9歳未満の子どもと同居している人。教員は1週間に2日まで、病院助手は月2回以上出勤すれば、残りは自宅で勤務できる。

労働基準法に規定された「みなし労働時間制」を適用し、院内で処理する1日平均の画像数約28件に近い25件以上の読影を義務づけることで、所定労働時間を勤務したものとみなす。

テレワーク ICTを活用し、自宅など職場と違う場所で、有効に時間を使って働くこと。在宅勤務、モバイルワーク（移動中の交通機関や喫茶店などで働く）、サテライトオフィス勤務（自宅に近い事務所などで働く）の3種類がある。

厚生労働省の好事例集では、在宅勤務を導入した企業としてカルビーや日産自動車、積水ハウス、三井住友銀行などが紹介されている。

人事部の担当者は「放射線科での効果を見守りながら、将来的には他の診療科でも導入できないか検討したい」と話している。